

5人制サッカー（ブラインドサッカー）

皆さん、こんにちは！国際交流員のスティーブン・キーンネルです。今日はパラリンピック種目の5人制サッカー（視覚障がい者サッカーやブラインドサッカーとも呼ばれます）を紹介したいと思います。

5人制サッカーは視覚障がい者スポーツの一つです。チームはフィールドプレイヤー4人とゴールキーパー1人で構成されます。フィールドプレイヤーは皆視覚障がいを持っていますが、ゴールキーパーは視力の制限がないので、ほとんどのゴールキーパーには目に障がいはありません。ゴールキーパーは指定のエリア（ゴール前の横5.82m x 縦2mのエリア）の中でしかボールに触れられません。フィールドプレイヤーはアイマスクをつけなければなりません。



5人制サッカーのルールはフットサルに基づいていますが、失明した競技者の安全と競技性の向上のために、いくつかの変更点があります。例えば、ボールに鈴が入っています。ゴールボールのように、鈴の音でボールのポジションや速さ等を感じ取ることが出来ます。鈴のみを頼りにするのではなく、ゴールキーパーと相手側ゴールの後ろで立つガイドも相手選手やゴールなどの方向や距離、色々な情報を選手に伝えます。

従来はゴールのサイズもフットサルと同じ（幅3m x 高さ2m）でしたが、2016リオパラリンピック後、フィールドホッケーと同じサイズ（幅3.66m x 高さ2.14m）になっています。また、ゴールのサイズだけでなく、試合時間も変更になっています。以前は25分ハーフのランニングタイムという形式、つまりボールアウトやファウルの時にも計時が止まりませんでした。変更後は、20分ハーフのプレイングタイムという形式になりました。この形式ではボールアウトやファウルの時に計時が止まります。

ピッチの周囲に高さ1mのフェンスが立っています。このため、ボールアウトはふつうのサッカーより珍しいことです。フェンスに触ることで選手は位置がわかります。それに、ボールをわざとフェンスの方へ蹴り、バウンドでパスしたりできます。

ペナルティーキックも当然あります。ペナルティーエリア内でファウルを犯すと、相手チームのペナルティーキックになります。ペナルティーキックはゴールから6 m離れた位置からゴールキーパーと1人対1人でゴールを蹴ることができる絶好の得点チャンスです。ほかには前半または後半の時間内に相手チームがファウルを6つ以上犯したら、ペナルティーキックを与えられます。この場合、ふつうのペナルティーキックと違い、8 mの距離から蹴ります。

衝突を避けるように、守備側の選手がボールを取りに行くとき、「V o y !」¹と呼ばなければなりません。反則するとファウルになります。そうはいつてもすごくアグレッシブなスポーツですから衝突が多いです。

選手が鈴の音、「V o y !」やガイドとゴールキーパーからの情報が聞こえるように、観客はプレー中に声を出してはなりません。

来年のパラリンピックには8チームが出場します。現在出場が決定しているのはブラジル、アルゼンチン、と開催国の日本。ブラジルは過去のパラリンピックの全大会で5人制サッカーの金メダルを手にいれています。ブラインドサッカー世界選手権では5回金メダルを獲得しました。パラリンピックで3回金メダルとっている主将のリカルド・アウベス選手が恐ろしく強いです。

ブラジルのライバルと言える唯一のチームであるアルゼンチンは2002年と2006年にブラインドサッカー世界選手権でブラジルを倒しました。パラリンピックでの銅と銀メダルは取ったことがありますが、来年こそ初の金メダル取得に挑戦します。今年のブラインドサッカーワールドグランプリで金メダルとMVPを獲得したマックスミリアーノ・エスピニョ選手が特に強いです。

日本は東京2020パラリンピックが5人制サッカーの初出場となります。主将の川村怜選手をはじめ、強いベテランの黒田智成選手と2019グランプリのベストゴールキーパーに決まった佐藤大介選手もいます。パラリンピックの大舞台で日本は優勝できるのでしょうか。応援しましょう！

¹ スペイン語で「行きますよ！」という意味です。